

議 事 録

| | | |
|------|--------------------------------|---|
| 会議名 | 釧路市障がい者自立支援協議会 第2回 生活支援部会 | |
| 事務局 | 釧路市障がい福祉課 釧路市障がい者基幹相談支援センター | |
| 開催日時 | 令和5年9月8日(金)15:00~16:30 | |
| 開催場所 | 釧路市防災庁舎 5階会議室 | |
| 出席者 | 部会員 | 出席28名(敬称略) 高橋部会長(鶴が丘学園) 井上副部会長(あゆみ) 佐藤副部会長(ニチイ)、北川(丹頂の園)、山形(さわらび)、菅原(プロムナード釧路)、伊藤(GHプルミエ)、森江(GHサハス)、菊池(GHかがやき)、及川・坂上(すてっぷ)、妹尾・二瓶(いっ歩)、千葉・齋藤(釧路養護)、大西(はばたき)、小林・福光(くしろ地域生活支援センター)、蛭名(ふるぐれ)、松田(ぽこあぽこ)、遠藤(山百合)、平間(社協)、佐々木(音別町行政センター)、池守(KCマインズ)、稲澤(ソラ)、松田(いまい)、齋藤(鶴野支援学校) 議事録 西(大きな木) |
| | その他 | |
| | 傍聴者 | |
| | 事務局 | 出席3名(敬称略) 鈴木・藤田(釧路市障がい福祉課) 柿沼(釧路市障がい者基幹相談支援センター) |

議 事 内 容

| | |
|------|---|
| 会議次第 | <ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 挨拶 釧路市障がい者自立支援協議会 生活支援部会長 高橋修3. 報告事項<ol style="list-style-type: none">1) 第7期障がい福祉計画および第3期障がい児福祉計画の生活支援部会案について4. 事例紹介<ol style="list-style-type: none">1) 鶴が丘学園の事例2) 生活介護事業所あゆみの事例3) ニチイケアセンター北都の事例5. グループワーク それぞれの事例について意見交換6. その他 |
|------|---|

議 事 内 容

1. 開会

2. 部会長挨拶

釧路市障がい者自立支援協議会 生活支援部会長 高橋 修

・前は第7期障がい福祉計画及び第3期障がい児福祉計画の部会案、部会員の顔合わせという所で部会を進めた。後程結果は報告予定だが、「入所施設から地域生活へ」この方針は今後も継続していくと考えられているものの、GHに入ったから、一人暮らしが出来たから地域に移行したというのは、果たしてどうなのか。場所や建物で地域移行したと考えるのではなく、そこでどのように暮らしているかという事が大事なのではないか。今日は昨年度末の部会でそれぞれの事業所での取り組みを聞いてみたいという意見があった事から、事例紹介という形でまずは役員の事例を紹介して、今後は部会員の方々の事例紹介に繋げていきたい。今後、事例を出した方にもメリットが得られるように、様々な意見、アドバイスを出してほしい。

3. 報告事項

- ・第7期障がい福祉計画 成果目標シート（資料3）から、意見等の説明
- ・第7期障がい福祉計画 活動指標シート（資料4-2）から、意見等の説明

4. 事例紹介

5. グループワーク

A グループ

- ・鶴が丘学園の事例紹介（高橋課長）

【利用者プロフィール・支援経過】の説明から【検討したいこと】として、アルバイトや無職等を繰り返し、対人関係が上手くいかず短期入所利用を経て施設へ入所となるが、本人より一人暮らしがしたいとの要望が聞かれ地域でまた生活する支援として対応しているケース。金銭管理にも問題があるため、計画的に自身で外出の仕方などを考えられる力をつけ、安定した地域生活が出来るように支援したいと考えている事に対してグループワークを行っている。

・今までにはないケースであり、週1回のコンビニやパチンコ外出では満足出来ていないと思われる。全体的に見守りが必要。就労や外の活動に目を向けてみる。自分で計画を立てる等、GHにステップアップ出来る様に取り組み、移行する。その後、自分が何に興味があるか、就労等たくさん選択肢もあるので、パチンコに変わる物はないか模索してみてもどうか。

⇒まずは、GHでの生活を検証して、その中で日中のサービスを利用し、色々な経験をしながら本人の欲求やニーズをクリアしていったら良いのではないかと。

B グループ

- ・生活介護事業所あゆみの事例紹介（井上副部会長）

【事例の概要・取り組み内容・取り組むことよって】の説明から【現在の課題】として、特定の女性職員に対して、触れようとするなど不適切な行動が見られており、今後、本人に社会的なルー

議 事 内 容

ルへの理解と併せて、適切な関わり方等を身に付けてもらえるよう対応方法を考えていきたいという事に対してグループワークを行っている。

・重度で自閉症を合併している方であれば、衝動性に対して社会的ルールを理解して貰うのは難しいと思われる。その為、女性に対して衝動的に触ろうとする行動への支援は環境的に配慮する以外には難しいのではないかと。それよりも、本人の興味関心を増やして関心を別に向ける。又、出来る事を伸ばす等に支援の主眼を置いてはどうか。ルールを学んで貰う為に、ルールを守る必要性を理解し易いように、メリハリを付けられる職員が対応する。視覚的な情報の理解が得意な方の為、写真等視覚的な情報を活用し、この行動を取った際には、相手が嫌な思いや悲しい思いをする等、視覚情報として本人に伝えてみてはどうか。一定の距離を保って関わる様に約束し対応していた事もあり、約束事を都度確認しながら対応していくしかないのではないかと思う。少し状況が違うが、自身の事業所には身体障がいの方で、同様に異性に興味がある方がいる。その方は理解力も高い事から、適切ではない行動に対しては、口頭で伝え理解を求めている。

C グループ

・居宅介護事業所ニチイケアセンター北都の事例紹介（佐藤副部長）

【本人の概要・現在の状況・困っている事】として、訪問時間に不在。こだわりが強い為時間内でサービスが終わらない。人見知りもあり、新しいヘルパーが入れない等の困り感があり、【解決策・結果】として、訪問して15分待機して不在の場合はサービスなし。時間内でサービスが終わらなかったら途中でも退室する。担当ヘルパーが休みの時は支援も休む等の対応を行っている。これらを踏まえてグループワークを行っている。

・キャンセル料金は発生している。ヘルパーが入るまでのプロセスとしては、同法人の事業所から今の事業所へ移った事が現在の利用に繋がっているとの事。本人のニーズ、事業所側のサービス提供内容にずれが生じており、課題の整理が必要であり、サービス提供の妥当な所を探っている状態である。ヘルパー事業の実際としてよくあるケースである。実際に入っているヘルパーの適応能力でサービス提供が繋がっている状況である。ヘルパーが入っていない時のご本人はカップラーメンやレトルト類で食事を摂っている。不在の場合の対応としては、電話連絡等で対応を明確にしている。気にかけてよく訪問している相談員はいる。他の関係機関との連携、協力、情報共有等の繋がりも大切である。本人の意思については、家事に関する事は支援を受けながら取り組みたい。本当は自分でやりたいと考えている。支援のゴールはどこか→見通せていない現状。誰かが本人へ寄添っている事が最優先なのではないか。

⇒ヘルパーのサービス提供に関しては、ある程度の妥協点を見つけながら、ヘルパーの力量にある程度任せている所はあるが、ある程度ルールとして譲れない所はしっかり本人や事業所と認識をしておく必要があると思う。本人の希望や将来的にどうしたいとかをしっかりと汲み取って、相談とサービス提供者が認識しながら支援をしていく事が大切。子どもの問題等色々な課題が世帯として複合的な課題があるので、様々な関係機関が連携しながら世帯に対して支援をしていく必要があるのではないかと。

6. その他

議 事 内 容

・前回の部会の際 GH の空き状況は HP に掲載しているが、もう少しやり易くする為に現在調整中であり、次回に報告できればと思う。

7. 閉会

以上

議 事 内 容